

956-12

昭和41年度 自昭和41年4月1日
至昭和42年3月31日

事業報告
決算報告書

財団法人 日本常民文化研究所

956-12

昭和41年度事業報告，財産目録，貸借対照表，損益計算書並に損益金
処分案は次の通りであります。

昭和42年5月20日

財団法人 日本常民文化研究所

理事長 有賀 喜左衛門

理事 宇野 脩平

“ 桜田 勝徳

“ 中山 正則

“ 宮本 馨太郎

“ 宮本 常一

“ 山口 和雄

956-12

◇目次◇

- (一) 事業報告
- (二) 貸借対照表
- (三) 損益計算書
- (四) 財産目録
- (五) 損益金処分案

(一) 事業報告

昭和41年度は、つぎの事業を行った。

- I 絵巻の会 8月をのぞいて月例会をもち、
 - 親鸞上人絵伝
 - 春日権現験記絵
 - 法然上人絵伝

の検討を終った。そして、波沢敬三編著「絵巻物による日本常民生活絵引」才4巻(全5巻)を角川書店より刊行した。

II 植物莖皮繊維および樹液等に関する民俗学的研究

2回の研究会をもち、既存資料の検討をおこなったほか、民具成立の背景として資料採取の技術的方法および労働組織、運搬を中心として実地調査を行った。

III 漁業発展の地域的類型に関する研究

2回の研究会をもち、既存資料の整理検討をなした。

昭和41年度 貸借対照表 昭和42年3月31日現在

勘定科目	公 益 部		收 益 部		合 計	
	借方(資産) 金額	貸方(負債) 金額	借方(資産) 金額	貸方(負債) 金額	借方(資産) 金額	貸方(負債) 金額
土地建物	5,932,269				5,932,269	
有価証券	419,000				419,000	
預金	360,000				360,000	
現金	565,000				565,000	
未払金	757,558		124,825		882,383	
未払金	10,180		3,547		13,727	
未払金	300,000		365,500		665,500	
未払金		500,000				500,000
未払金		6,711,269				6,711,269
未払金		7,923,6				7,923,6
未払金			565,000			565,000
未払金			410,000			410,000
未払金			1,184			1,184
未払金			9,058			9,058
未払金			9,645			9,645
小計	8,344,007	7,290,505	593,517	985,242	8,937,524	8,275,747
当期損益		1,027,958	391,725		391,725	1,027,958
計	8,344,007	8,318,463	985,242	985,242	9,329,249	9,303,705
益金不算入		28,354				28,354
配当金		△ 2,810				△ 2,810
損金不算入						
公租公課減算						
再計	8,344,007	8,344,007	985,242	985,242	9,329,249	9,329,249

損益計算書 昭和42年3月31日現在

勘定科目	公 益 部		收 益 部		合 計	
	損失の部 金額	利益の部 金額	損失の部 金額	利益の部 金額	損失の部 金額	利益の部 金額
職員給与	260,400		719,600		980,000	
労務費	522		2,963		3,485	
印刷費	17,180		47,720		64,900	
通信費	8,222		29,596		37,818	
交通費	2,585		20,925		23,510	
旅費	8,013		31,418		39,431	
雑費	7,317		24,468		31,785	
公租公課	175,880		1,200		177,080	
減算	9,668		30,672		40,340	
雑損			154,140		154,140	
雑益			704		880	
雑損			888		1,110	
雑益			36,336		48,445	
雑損			25,000		25,000	
小計	502,294	1,530,252	1,125,630	733,905	1,627,924	2,264,157
当期損益	1,027,958			391,725	1,027,958	391,725
計	1,530,252	1,530,252	1,125,630	1,125,630	2,655,882	2,655,882
益金不算入				2,989		1,500,000
配当金				59,805		33,241
損金不算入				566,000		59,805
公租公課減算				5,466		566,000
再計				99,645		5,466

昭和41年度 財産目録
昭和42年3月31日現在

公益部		
資産の部		
土地	5,932,269円	港区三田綱町11番所在106坪74 1,440,357円 " 綱町10番の8所在333坪78 4,379,452円
建物	419,000円	港区三田綱町11番地所在並鉛メッキ鋼板葺平家建 居宅21,25坪 全所附属建物木造瓦葺平家建居宅 建坪23,坪50
有価証券	360,000円	清水建設株式会社株券2,000株(評価) 300,000円 全上増資新株式 " 1,200株 60,000円
預金	757,558円	才一銀行銀座支店 定期預金 500,000円 協和銀行麻布支店 普通預金 257,558円
元入金	565,000円	運営資金として収益部へ元入
未収金	300,000円	港区三田綱町所在土地, 建物賃貸借 昭和41年度 才4, 四半期分未収
負債の部		
基本金	500,000円	才一銀行銀座支店定期預金
通常財産	6,711,269円	資産の部掲上土地, 建物, 有価証券
積立金	79,236円	既往年度の益金繰入れ分

収益部		
資産の部		
預金	124,825円	協和銀行麻布支店普通預金 99,812円 振替貯金 25,013円
未収金	365,500円	絵引才4巻 2,200部印税 角川書店
繰越在庫高	99,645円	既往発刊図書日本星座方言資料分類アイヌ語 辞典他13種182部
負債の部		
元受金	565,000円	運営資金として公益部より受入
借入金	410,000円	渋谷氏より借入 400,000円 期末請求引当のため 一時借入河岡氏より 100,000円
未払金	1,184円	41年度3月分源泉所得税 麻布税務署
後期繰越金	9,058円	昭和39, 40年度の益金繰入



956-12

昭和41年度

損益金処分

昭和42年3月31日現在

公益の部

当期利益金 1,053,502円

処分 出版準備積立金(創設) 100,000円

積立金へ繰入れ 953,502円

計 1,053,502円 残額なし

収益の部

当期損失金 391,725円

処分 後期繰越金補填 9,058円

繰越損失金に繰入れ 382,667円

計 391,725円 残額なし

決算報告書と出納諸帳簿を照合致し相違ないことを証明致します。

昭和42年4月28日

監事 高木一夫 ㊟

全 小宮山若木 ㊟

956-3

昭和42年度

事業計画
収支予算書

財団法人 日本常民文化研究所

(一) 事業計画

昭和42年度は、新たに「民具辞典」の編纂をとりあげ、漁業史研究はもう1年の継続をなして、それらの成果は、紀要(年報)にて行う。同時に、地方研究同人をふくめた研究体制の整備にも留意する。

I 「民具辞典」の編纂

本研究所は、開所いらい民具研究を大きな柱としてすすめてきた。そして民具の蒐集・整理も積極的に行い、これらが民俗学および隣接科学などにおける、物質文化の研究にあずかったことは実に大きかった。

ここにおいて、従来の民具研究の成果を、辞典のかたちにおいて整理し一面では、研究者および一般の需要に資するとともに、今後の民具研究の展望をおこないたい。

その方法として、とくに強調したいのは、やはりこれまで継続してきた、中世絵巻物の研究から、村田泥牛氏による模写を最大限に活用し、その中から、民具部分をクローズアップし、また民具と常民との交渉を明らかにする。民具研究のクロノロジーとしては必須の作業であり、期待しうる。

項目の選定にあたっては、民具成立の背景にも意を用い、資料採取の技術的方法および労働組織、またこれにともなう運搬方法ないし組織、あるいは民具の流通過程も積極的にとりあげたい。

項目は、従来の民具研究の成果を、十分に整理しうる中項目主義を採用し、さきにあげた絵巻物資料をはじめとして、絵画資料、これまで研究所にて蒐集してきた写真資料など、最大限の活用をはかりたい。

さいごに、戦后目ざましく進展した、考古学的資料(写真による)の蒐集・整理も平行的にすすめたい。

II 漁業発展の地域的類型に関する研究

明治末期にはじまる漁業における資本主義の本格的展開過程は、才一次産業部門のなかでも、ほかではみられない豊富な諸形態を示していることは周知のことである。そしてこれを促したものは、まず漁船の動力化にあったが水産業においては複雑な海況によって魚種および採捕技術にきわめて地域的特性があり、水産業の近代化をとりあげるにしても、徳川中期以降に飛躍的に進んだ漁業生産技術が前提になっており、しかもその多様生はそのまま地域的性格を表現するものであった。その意味からするならば主要生産地域の個別的研究の上に漁業史の体系化はなされなければならない。

戦后における漁業史研究はかなりの盛行をみ、個別的研究もすすめられたが、いまだ漁業生産の発展を地域的類型にまでまとめあげるところまでいたっていない。戦後の漁業制度改革ともなう本研究所の漁村古文書の蒐集筆写資料は尠大な量におよんでおり、この中には相当量の未研究資料が残されているので、研究員の地域分担に応じて、これら資料の検討を通じて上記課題にとりくみたい。

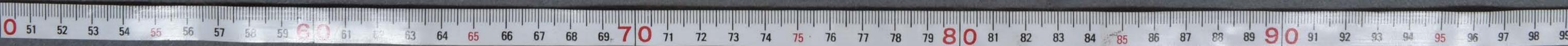
- 主任研究員 山口和雄（明治大学教授）
 宇野脩平（東京女子大学教授）
 二野瓶徳夫（国立国会図書館）
 網野善彦（名古屋大学助教授）
 秋田俊一（北海道立総合経済研究所員）
 速水融（慶応大学助教授）
 五味克夫（鹿児島大学助教授）
 河岡武春（日本常民文化研究所員）

昭和42年度 収支予算

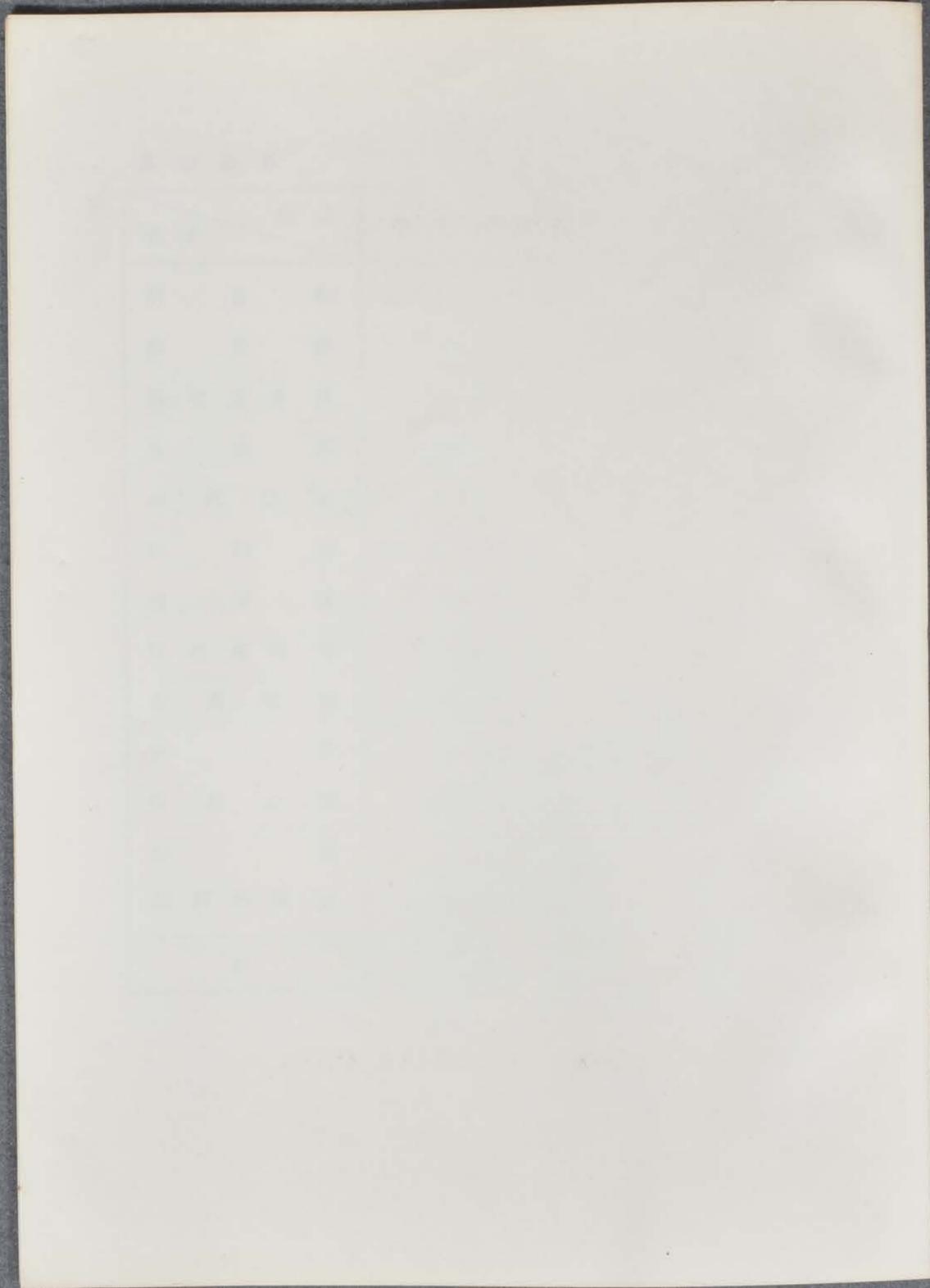
収入の部		
項目	区分	備考
定期預金利息		50万円才一銀行銀座支店
株式配当		清水建設株式3400株
地代		
印税		「絵巻物による日本常民生活絵引」5巻
出版物売上金		
補助金		
寄付金		
委託費		
前年度繰越金		
計		

支出の部

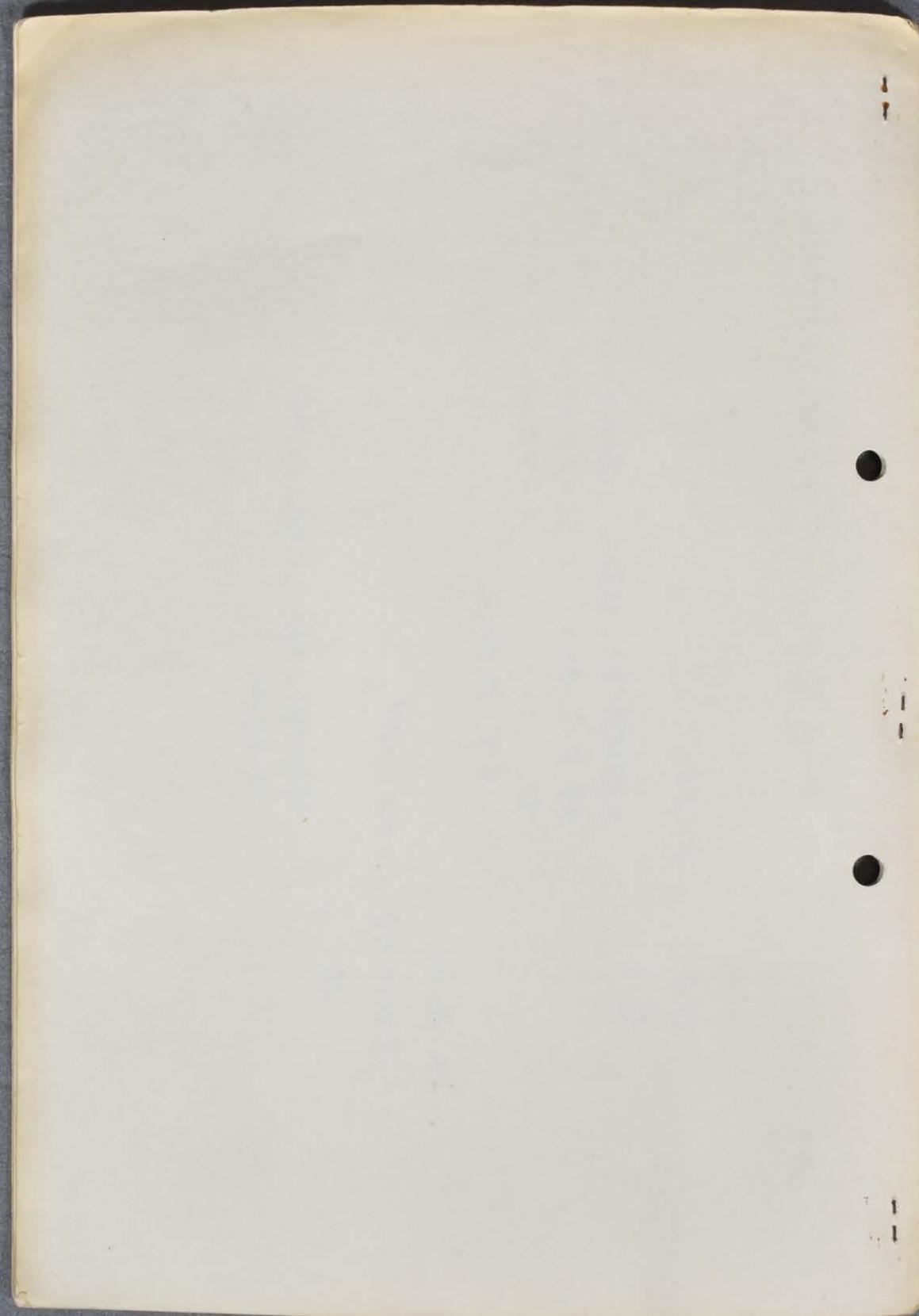
項目	区分	予算額	備考
役員	給	0	
職員	給	944,000	59,000×16
旅費	交通費	140,000	交通費補助を含む
会合	費	40,000	
消耗品	費	15,000	
印刷	費	25,000	
通信	費	55,000	電話料ほか
資料蒐集	費	30,000	
調査旅	費	200,000	
労賃		100,000	集計整理費, 筆稿料その他
租税公課		200,000	固定資産税ほか
雑費		36,227	
紀要出版	費	200,000	
計		1,975,227	



956-3



956-13



第10卷
第19頁

昭和四十三年度
第一回評議員會議事録

一、出席者
二、出席者
三、出席者
四、出席者
五、出席者
六、出席者
七、出席者
八、出席者
九、出席者
十、出席者

市川信次郎
遠藤武
河野武春
財団法人
日本常民文化研究所

昭和四十三年度
第一回評議員會議事録

一、出席者
二、出席者
三、出席者
四、出席者
五、出席者
六、出席者
七、出席者
八、出席者
九、出席者
十、出席者

高木一夫
山田正則





日本書局文部省印刷
昭和四十二年

第一回評議員会議事録
昭和四十一年

昭和四十一年度

第一回評議員会議事録

一日時入 昭和四十一年五月三十一日午後五時半開会

二場所 新館 毎日 十日十三番地 中村屋

三出席者 評議員 有賀喜左衛門 評議員 村田勝徳

市川信次 評議員 二野瓶徳夫

遠藤 武 評議員 宮本馨太郎

河内武春 評議員 山口和雄

評議員 高木喜夫

評議員 磯貝 忠男 評議員 中野正則



議長の指教を以て、編纂委員長 磯貝 勇次氏、
 「民具事典」の構想は、河岡が代読し、本年度中
 に原稿作成を終わり、次年度において完成すること
 編纂委員として、た記の者があたること、なお、磯貝
 氏が急に病気が倒れたので、桜田氏が代行すること
 磯貝氏承認した。以下、編纂委員の報告を要約する。
 ◎ 項目選定委員 菅野 幸三氏、磯貝 勇次氏、
 磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 執筆委員 菅野 幸三氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 編集委員 菅野 幸三氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 印刷委員 菅野 幸三氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 経理委員 菅野 幸三氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、



「常民文化論集」発刊の件
 議長 民具および漁業史にかんする論文を、年報
 として発刊すること、原稿提出は十一月末、翌年五
 月末までに刊行の事をけかり、委員異議なく承認
 した。
 ◎ 議案オチ五号
 漁村史料の整理、返還の件
 議長 五月五日、水産庁より平沢 豊持君
 が、日本女子大学を訪問され、正式にこの史料の整理に
 必要約十五坪の部屋、および整理、返還に必要な
 費用を、委員より、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 議案オチ六号
 磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 議案オチ七号
 磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 議案オチ八号
 磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 議案オチ九号
 磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、
 ◎ 議案オチ十号
 磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、磯貝 勇次氏、



[Faint handwritten text, mostly illegible]

かまご... 以上で議事を全部終了し午後八時議事長閉会を宣
した。

昭和四十一年五月三十一日

◎ 議事長

有賀喜丸

◎ 議事録

◎ 議事録



昭和四十三年度
 第一回理事會決議事項
 一、日時
 二、場所
 三、出席者
 四、議程
 五、決議事項
 六、その他

財団法人
 日本常民文化研究所

昭和四十三年度
 第一回理事會決議事項
 一、日時
 二、場所
 三、出席者
 四、議程
 五、決議事項
 六、その他



20

日本市民花...

Red seal

Red seals

五月廿五日 議 日長

有賀喜花川門

署名人

櫻田勝徳

署名人

山口和雄

Main body of handwritten Japanese text in vertical columns, including various characters and symbols.

Red seals



954

纂^第20.

昭和四十二年度
第三回評議員會議事録

財団法人
日本常民文化研究所



昭和四年三月度

三月度評議員会

一日時 昭和四年三月十七日 午後五時半 一六分

二場 所 中央区八重洲六一三 石岬ビル地階不設議室

三出席者 評議員 有賀喜友衛門 評議員 中山正則

村田相武 宇野祐平 二野瓶徳夫

猿丸武彦 河野武春 祝 宮静

前野武彦 河野武春 祝 宮静

四 委 任 状 に よ る も の

評議員 関野善彦 評議員 永島裕三

磯貝 勇 宮本常一

伊豆川 誠吉 山田 雄

評書本三号

常民文化研究叢書刊行の件
 評長の指名により、河岡研究員より、戦前のアチアウ
 彙報・ノート中より一おう需所要があるものを撰採
 して出版する。また近い将来新刊に出版するもの
 をこの叢書の中に入れておくこと、その中に入らぬ出版書
 肆慶友社よりある旨を報告し、著作権その他
 その方法上より、取扱いから検討する旨、四月
 三日迄を目標として、本席を檢討すること、全員の
 の諒解があった。
 以上で全評書本終了し、評長用会を宣した。
 昭和四年三月十七日

五條 評長 月が喜花街の
 五條 評長 月が喜花街の

署名人 櫻田勝徳

署名人 二野瓶徳夫

(Blank lined area for notes or signatures)





昭和四年二年度

才二回理事會

一日時 昭和四年三月十日 午後七時

二場所 中野区八重洲六三 石岬ビル地階(小会議室)

三出席者 理事 有賀喜友衛門 理事 中山正則

不附 村(村) 田勝徳 (議題) 村正則

委任状 村正則 村正則 村正則

四議事要領 理事 宮本正則 理事 山本和雄

◎有賀理事長議長となり、開会を宣し、全員出席

議事録署名人、中山正則、村

才二回理事會

日本書院文庫



◎ 評議員改選の件

野村正行、河野幸と指名し、議事に入らる。王博

◎ 評議員改選の件

議長より、本日評議員の任期がきつるの、改めて
送任したい旨を話し、従来の子二十五名のほか、野
沢邦夫（江戸川区立中學校頭）、萩原宜之（アジ
ア経済研究所）、江田豊（横須賀市立商業
学校）の三氏を追加送任したい旨を打ち出した。一
日、新評議員は次の通りか、名を改めた。一、評
議員 網野善彦、評議員 伊豆川浅吉
大目野有嶺、喜友衛内、半野修平
磯貝 勇、江田 豊

◎ 評議員改選の件

野村正行、河野幸と指名し、議事に入らる。王博

◎ 評議員改選の件

議長より、本日評議員の任期がきつるの、改めて
送任したい旨を話し、従来の子二十五名のほか、野
沢邦夫（江戸川区立中學校頭）、萩原宜之（アジ
ア経済研究所）、江田豊（横須賀市立商業
学校）の三氏を追加送任したい旨を打ち出した。一
日、新評議員は次の通りか、名を改めた。一、評
議員 網野善彦、評議員 伊豆川浅吉
大目野有嶺、喜友衛内、半野修平
磯貝 勇、江田 豊



◎ 評議員改選の件

野村正行、河野幸と指名し、議事に入らる。王博

◎ 評議員改選の件

議長より、本日評議員の任期がきつるの、改めて
送任したい旨を話し、従来の子二十五名のほか、野
沢邦夫（江戸川区立中學校頭）、萩原宜之（アジ
ア経済研究所）、江田豊（横須賀市立商業
学校）の三氏を追加送任したい旨を打ち出した。一
日、新評議員は次の通りか、名を改めた。一、評
議員 網野善彦、評議員 伊豆川浅吉
大目野有嶺、喜友衛内、半野修平
磯貝 勇、江田 豊



◎ 議案才三

理事長の互選および監事の選任に関する件
 評議員会により新たに選任された理事より、
 直ちに理事会が成り、村田勝徳理事の発言に
 より、中山正則氏を議長に指名し、中山議長よ
 り理事長を互選したまは、白菊言があり、互選の結
 果、有賀喜友衛氏が理事長に選ばれた。
 ついで監事に小宮山若木、高木一夫、西氏が選
 任された。

◎ 議案才四

連村古文書返還の件
 議長の指名により、宇野理事が返還業務の大
 略を説明し、ついで二野瓶評議員が本産片の

◎ 議案才四

経費負担の内訳を述べ、さらに河岡研究員が作
 業予定、同予算案を讀上げ、全員異議なく
 ものとめ、返還にあつては、とくにこれまでに謝意をい
 ようにして現わすか、また返還後の散休を防ぐこと
 につきも留意して欲しいことも述べ、全員これに賛
 成した。

◎ 議案才四

常長文化研究會報告刊行の件
 議長が報告をよみ、河岡研究員より、戦前の
 アチの常報の刊行中より「あつた」を出版する
 ことも提議して出版する。また近々理事長に出版す
 るべき報告書の刊行にあつては、七月の刊行が

